

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	市民舞台芸術創造支援事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	文化会館		包含する細々目	1	10	5	7	11	5	1,900
政策	2 地育力によるこころ豊かななづくり											
施策	27 文化芸術の振興											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	15	年度～	年度	関連計画条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数 小学生以上の市民	文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			7000			
	催しの席数(席) (1,288席×4公演を仮定)		現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			5152			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
本格的な舞台創造活動の実現とそのための技術レベルの向上(底上げ)を目指す。 新たな舞台芸術創造の支援を行い、多くの鑑賞者を得る。	文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民のうち、レベルアップ講習会に参加した割合(%)	18目標	28	最終目標	28	
		18実績	28	19目標	28	↑
	23目標		23実績			最終目標達成年度
	新たな舞台芸術を制作し、上演した際の席数に対する鑑賞者の割合(%)	18目標	70	最終目標	70	
		18実績	70	19目標	70	↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	市民による本格的な舞台芸術創造活動を支援する事業。 専門家による指導や、舞台装置の製作など多くの時間と経費が必要となる。その経費の一部を負担することにより、創造活動が活発となり、地域の舞台芸術活動の底上げが図られる。市民が新たな舞台芸術創造に関心を持ち、地域の文化向上を図る。	18年度の実績 市民主体の舞台芸術創造支援と発表(伊那谷文化芸術祭等)を前提にしたレベルアップ講習会への支援を行った。この事業による支援を舞台発表の際だけに用いるのではなく、基礎的な技術レベルの向上を目指すことにも適用することで、総合的な文化芸術レベルの向上に寄与していく。伊那谷文化芸術祭が20回を迎えることにより、主体的な文化芸術創造活動が行われたのでこれを支援した。	レベルアップ講習会の回数と参加した人数 創造事業に参加した人数	事業遂行中 250人
19年度計画	市民主体の舞台芸術創造支援と発表(伊那谷文化芸術祭等)を前提にしたレベルアップ講習会への支援を行う。市民の主体的な創造による舞台芸術作品(「夢・大江磯吉」の再演を予定)を発表するための支援を行う。	レベルアップ講習会の回数と参加した人数 創造事業に参加した人数	50回 のべ2,000人 100人	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	1,900	1,900
	事業費計(A)	1,900	1,900
人件費	正規職員所要時間	18年度 400	19年度 400
	臨時職員等所要時間	220	220
	人件費計(B)	1,667	1,667
	トータルコストA+B	3,567	3,567

特定財源内訳や補足事項  
舞台作品の制作・発表を隔年で行うことにする。これにより、5か年の合計金額が、概ね枠配分で示された金額となる。

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	文化活動や創作活動を支援する。	文化活動や創作活動を支援した団体数。(団体)	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
文化芸術振興基本法の制定を踏まえ、市民による本格的な舞台芸術創造活動の必要性が増してきており、15年度から導入した。	技術レベルの底上げを図るため、指導者による講習会の開催に対しての補助と創造事業の活動に対する補助を行っていく。これにより、文化芸術が公共的な財産として価値を高めていくことになる。	はじめに市民の制作要望があり、これに応える形で本事業を計画したものであり、文化協会傘下の市民団体から、好意的に受け止められている。

## 【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	各団体のレベルアップ講習会の充実を図ってもらうとともに、特定のジャンルのみの補助とならないように拡充を図る。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	飯田文化協会との連携を充にし、改善策を検討していく。

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	